

高等学校活用例



※掲載作文はそれぞれの活用例で紹介

全学年 総合的な学習の時間

○学習課題

いじめと向き合う

○掲載作文 「言葉＝刃物」

『「一人」になる恐怖』

○活用の仕方

掲載作文を読ませ、いじめに向き合う行動を考えさせる。

○活用の効果

同世代の体験は、生徒の心に重く響いた。自分の経験と重ね合わせる生徒もあり、自分事としていじめと向き合うことができた。

人権週間での取組

【校長講話での活用】

校長講話のあとに、一人一人が人権作文に取り組む。書く際の参考にする。

○掲載作文 「社会と私」

第二学年 現代文

○活用の仕方

下記のプリントを配布し、人権についての意見文を書かせる。

○活用の効果（生徒の意見文より抜粋）

【掲載作文 「言葉＝刃物」】

言葉は簡単に発せる。だけど、言葉を受けた人の心にずっと残り続ける。後から取り消すことはできない。だから、思ったことをそのまま発するのではなく、相手の気持ちを考え、思いやりを持って初めて言葉にするのがいいと思う。

【掲載作文 『自分らしさ』と『相手らしさ』】

自分の個性を出し過ぎて相手を傷つけてしまったり、相手の個性を認めずいたら、「自分らしさ」と「相手らしさ」の相互関係は成り立たないと思います。自分の良いところや個性を出しつつも相手の個性を引き出し、認め、相手の意見を尊重していくことで、「自分らしさ」と「相手らしさ」のバランスが保たれ、相互関係が成り立ち、世界から差別がなくなっていくと思います。

【掲載作文 『「一人」になる恐怖』】

学校にいる間は一人ではいたくない。ほとんどの人がそう思うだろう。ではなぜ人は一人でいたくないと分かっているのにいじめが起きるのだろうか。それは自分が一人にならないためである。「あの子は無愛想だ」などと言い、共感させて話題を共有することで仲間をつくる。そうやって誰かを犠牲にしているのだと考えられる。こうしていじめが起ってしまうのだ。

○授業者より

「人権作文を書きましょう」と単に指示するよりも、生徒は人権課題に向き合うことができ、意見文が書きやすかったようである。

←現代文における活用例で使用したプリント

【活用した作文】

- ・言葉＝刃物
- ・「自分らしさ」と「相手らしさ」
- ・「一人」になる恐怖

